

5. TDM施策の実施状況

※TDMとは、交通(transportation)需要(demand)管理(management)の頭文字で、一般的には「交通需要マネジメント」と訳されています。交通渋滞を緩和するための手法の中で、「車の利用者に対して、車や道路の利用方法の変更や工夫を促す手法」がTDMです。

施策内容 観光繁忙期における「経路分散」・「時間分散」・「信号現示の調整」施策の実施

○令和元年度では「時間・経路分散」と「信号現示の変更」の社会実験を実施し、以下の効果が確認できた。

- ・7時台～9時台の時間交通割合が昨年度より増加⇒「**時間分散施策**」について一定の効果が確認(図1)
- ・9時台～13時台において国道329号(迂回指定路線)の利用分担率が25%以上まで増加⇒「**経路分散施策**」について一定の効果が確認(図2)
- ・観光交通が回復している中、伊差川IC交差点(B方向)以外の交差点で渋滞が大幅に緩和⇒「**信号現示の調整**」による効果は大きい。(図3)(R5.5 GW実施)

○上記のとおり、経路分散、時間分散施策の一定の効果を確かめることから、今後も施策を継続して実施予定。(R5.9 シルバーウィーク実施予定)

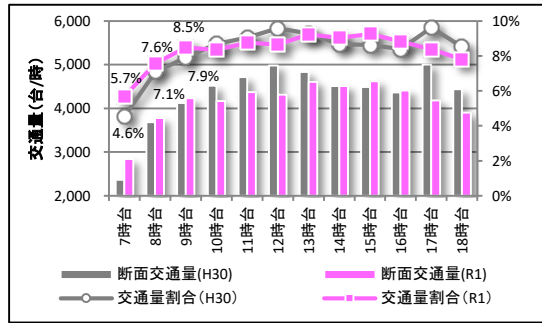


図1:A断面交通量の時間分散

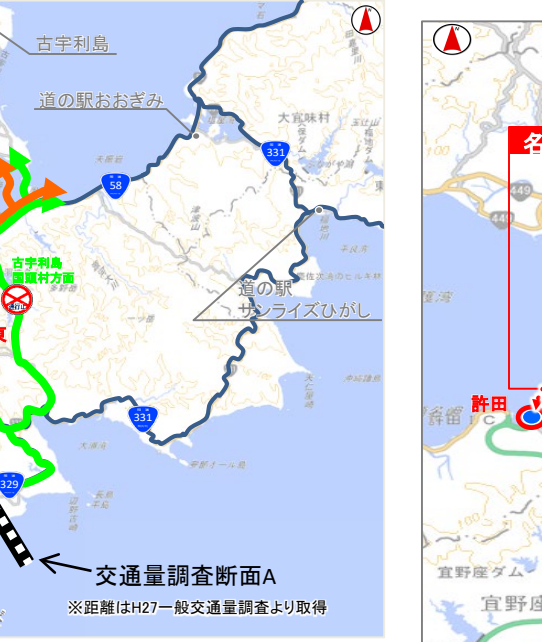


図2:A断面交通分担率(R329分担率)



図3: 名護市中心部の渋滞状況 (信号現示による効果把握)



経路分散社会実験の実施経緯

内容	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
大型連休時(ゴールデンウィーク)(5月)					●	●	●	●				
海洋博公園花火大会(7月)	●	●	●			●						
大型連休時(シルバーウィーク)(9月)				●								○

具体的な取組内容

施策内容

観光繁忙期における「時間分散」施策の実施

トピックス GWの北部地域は、渋滞遭遇率高し!

ゴールデンウィークの移動は早めに出発して渋滞する時間帯を回避しよう!

春の沖縄は行楽シーズン真っ盛り。特にGWの北部地域は、各地で混雑が予想されます。
でも渋滞する時間帯を避けて出発すれば、**ススイ度UP!** 渋滞・混雑をうまく回避し、快適なドライブを楽しんでください。

出発する時間帯によっては
最大約50分の差!

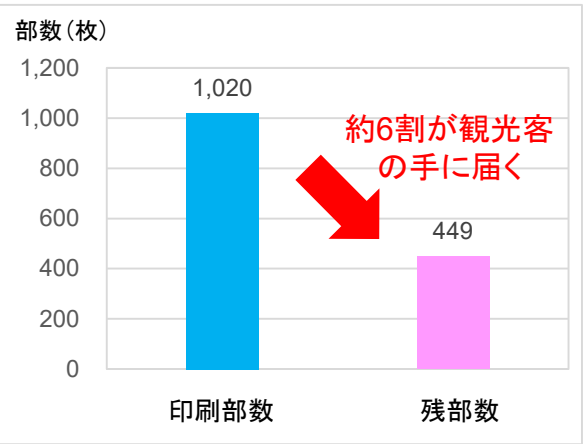
那覇ICから美ら海水族館までの所要時間

7時出発	80
8時出発	90
9時出発	120
10時出発	127
11時出発	126
12時出発	131
13時出発	117
14時出発	99



■ラジオ及びチラシ(道路情報誌アシナビー)による周知		
ラジオ	ラジオ局	3局 (FM、RBC、ROK)
	放送期間	R5.4.28 (金)～R5.5.7 (日)
	放送回数	朝夕ピーク時間帯(1日1回～2回/1局)
チラシ	配布先	36箇所(那覇空港周辺のレンタカー会社6社、道の駅許田、海洋博公園等)
	配布時期	R5.4.24(郵送・訪問)

※ラジオ放送内容(約20秒/1回)
北部国道事務所からのお知らせです。
連休中は、許田IC、伊差川IC、国道58号名護市世富慶交差点で、渋滞が激しくなります。
昨年は午前9時過ぎには激しい渋滞が見られたので、お出かけの時刻を早めるなど混雑しない時間帯に通過することをおすすめします!



- WG時はお客さんが多く、全て配布できた。
 - お客さんから返却時に「時間分散」の情報をみて、スケジュールを変更し、渋滞に困られなかったという話を聞いた。
- (レンタカー会社の従業員)

▲アシナビー配布状況

GW (R5.5)



施策内容 TDM施策の方向性とシェアサイクル実証実験の概要

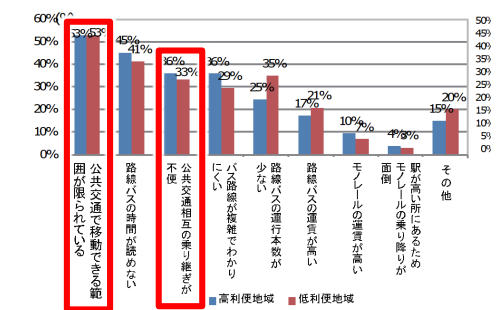
(1) 目的

- 主要渋滞箇所を基本とした渋滞の解消・緩和に向けては、交差点改良やバイパス整備のハード対策とともに、ソフト施策(TDM施策)も重要と考える。
- 特に渋滞が著しい那覇都市圏を対象に、TDM施策の方向性および、課題抽出や今後の検討のイメージを報告する。

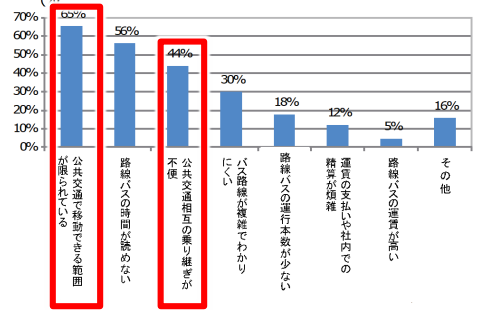
(2) 現状および問題・課題(沖縄の公共交通における問題等)

- 沖縄の公共交通における県民・企業に対するアンケート(H25)では、**半数以上が「公共交通で移動できる範囲が限られている」**ことや、**3~4割が「公共交通相互の乗り継ぎが不便」**であることを問題視されており、このような状況が公共交通への転換(TDM施策)の妨げとなることが想定される。
- ⇒ **公共交通に代わるモードや、公共交通の乗り継ぎを補完するようなモード**の利用促進が課題の一つとして上げられる。

【県民調査】



【企業調査】



出典: 沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムに係る県民意識等実態把握調査(内閣府)

(3) 問題等を踏まえたTDM施策の検討の方向性

- 一方、現状として那覇都市圏では、公共交通の基盤が充実しつつある。
⇒那覇都市圏では、朝・タピーク時間帯に**バス専用レーンが延伸**されるなどバス利便性向上や、**基幹急行バスの運行が開始**されるなど取り組みが行われている。
- ⇒また、**モノレールも延伸**し、より遠方からの利用も可能となっている。
- ⇒加えて、**シェアサイクル導入も活発化**し、サイクルポートも増加傾向にある。
- これらを踏まえ、TDM施策の方向性として**公共交通の利用促進に繋がるようなシェアサイクル活用による利用促進や、シェアサイクルの更なる普及による自動車利用からの転換を促す**ことを目指す。

(4) 令和4年度までの検討概要

1) 社会実験の実施

- 路線バスとシェアサイクルを組み合わせた利用を想定し、3ステーションを増設。
- 社会実験期間中の利用者数の変化、利用者の意向調査等を実施し、効果把握。



図. 増設した3ステーションの位置

2) 社会実験の効果実証

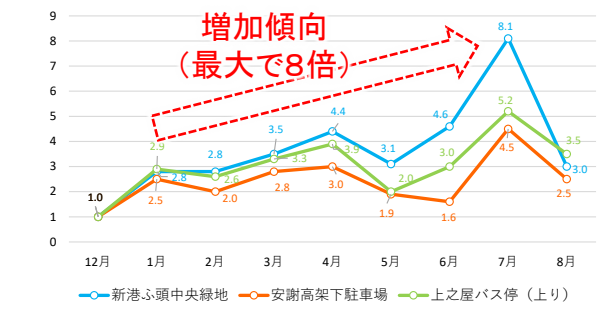


図 2021年12月からの増加率

- 実験中、増設したステーションの利用状況は増加傾向にあり、**最大で設置月の8倍**となった。
- また、利用者に対する意向調査から、**約6割の継続利用**(たまの利用含む)が見込まれる結果となった。

